

いじめの早期対応に関する研究

—教職員の対応力の向上を目指した研修資料の活用を通して—

教育相談室 齋宮美紀 伊賀上知晴 矢野泰慎
 川中亜紀子 富田和宏 酒井綾
 研究協力者 愛媛大学教育学部准教授 藤原一弘

1 研究の目的

いじめの対応に当たっては、ささいな事案も含めて積極的に認知し、早期に対応することが求められている。しかし、不適切な対応によって児童生徒に深刻な被害を与えたり、保護者等に対して大きな不信を与えたりした事案が発生している現状がある。そこで、学校で活用できる「いじめの早期対応に関する研修資料」を作成し提供することで、いじめの問題に対する教職員の対応力の向上を図りたいと考えた。1年次には、「いじめの早期対応に関するアンケート調査」を実施し、教育相談や組織的対応に関する課題があることが分かった。本年度は、得られた課題を踏まえて作成した研修資料を協力学校において活用し、研修効果を確認することとした。

2 研究の内容

(1) 研修資料の作成

校内研修は、研修前半に講義動画の視聴、後半に意見交換という構成で実施することとした。研修資料として、講義資料（オンデマンド動画）及び意見交換資料（事例資料、スライド資料、ワークシート）、ハンドブック資料を作成した。意見交換資料は、研修担当者がスライドに従って進行し、受講者はワークシートを用いて個人やグループの考えをまとめることができるようにした。ハンドブック資料は、研修内容を後で振り返ったり、発展的な内容を知ったりすることを意図して作成した。

(2) 協力学校における研修資料の活用

ア 校内研修1

いじめの捉え方を見直すことと、児童生徒や保護者の気持ちに寄り添った教育相談について考えることを目的とする。意見交換では、事例から「保護者からの相談」と「児童生徒との教育相談」の場面を取り上げ、教職員の対応について役割演技を取り入れて考えるようにした。

イ 校内研修2

実効性のある組織的対応について考えることを目的とする。意見交換では、校内研修1の事例が本校で実際に起こったと想定して、ワールド・カフェ方式で協議し、組織的対応の流れのシミュレーションを行うようにした。

(3) 研修後のアンケート調査の結果と考察

校内研修1、2ともに、講義動画及び意見交換による研修内容について肯定的な結果であった。一方で、自由記述から、「柔軟に校内研修を実施できるよう複数の研修パターンを示す」「どの学校種にも対応できるよう事例を作成する」「学校いじめ防止基本方針を効果的に活用できるよう研修シナリオを修正する」等の必要性が確認できた。

(4) 協力学校での取組前後のアンケート調査の結果と考察

教職員のいじめの対応力に関する質問を校内研修の取組前後で比較したところ、否定的な回答の割合が減少した。教育相談や組織的対応に苦手意識や不安感を抱いていた教職員が、研修を通して、よりよい対応のイメージを持つことができたのではないかと考えられる。また、自由記述から、研修資料で学んだことが実際の場面において活用されていることも確認できた。

3 研究のまとめ

作成した研修資料は、いじめの早期対応に関する教職員の対応力の向上を図るものとして適切であるといえる。今後は、本研究によって明らかになった研修資料の改善点に修正を加え、各学校が活用できるようにするとともに、本センターの研修でも活用していく。